

浜岡原子力発電所佐倉地区対策協議会への地域の会についての説明会 概要

1. 日 時 平成19年11月10日(土) 15:00 ~ 16:00
2. 場 所 東京電力 エネルギーホール(展示室)
3. 参 加 者
 - ・佐倉地区対策協議会
植田亮敏会長 他 19名
 - ・地域の会
新野良子会長 渡辺丈夫副会長
押見事務局長
4. 内 容
 - (1) 佐倉地区対策協議会及び地域の会会長あいさつ
 - (2) 地域の会について、押見事務局長より説明
 - ・会の目的 ・委員構成 ・任期 ・主な活動内容
 - (3) 新野会長より、活動内容の詳細について説明
 - ・「経済協力開発機構(OECD)/原子力機関(NEA) ワークショップ」での発表資料を用いて説明。
 - (4) 渡辺副会長より、発足に至る経緯について説明
 - ・「地域の会設置に向けての基本的な考え方」の資料を用いて説明。
5. 懇 談
 - 佐倉地区委員 : 地域の会として、事業者や国、行政に意見等をどのようにして伝えているか。
 - A 毎月開催している、定例会にオブザーバーとして出席してもらっており、定例会を通して伝えている。
また、今までにも必要な場合に、意見書や提言書を提出した。
 - : 地域の会は地域振興について、どのような活動をしているか。
 - A 柏崎刈羽原子力発電所は、事業者である東京電力からの建設依頼ではなく、柏崎市、刈羽村が誘致した。
地域の会では、安全・安心に関わる議論の場であり、地域振興に関してはテーマとしていない。
 - : プルサーマルについての見解は。
 - A プルサーマルについての議論をするまでに、東京電力の信頼回復が至っていない状況。プルサーマルについての委員同志の議論や勉強も今回の地震に関する対応等で出来ない状況。

: 地域の会の運営費等はどこが出しているのか。後押しは誰がしているのか。

A 運営に係る費用は全て新潟県が出している。しかし、「金を出しても口は出さない」ということで、恵まれた環境で自由な活動が出来ている。活動内容は運営委員が中心で提案され、自主運営されている。

: 地震によって起きた発電所の変圧器火災等の情報が、住民にうまく伝わらなかったと聞いたが。

A 住民は余震が怖くて、家の外で過ごさなくてはならず、テレビが見られない状況。また、低空を飛び回るヘリコプターの騒音で、防災行政無線の放送も聞き取れない状況もあり、情報が取れなかった。

国や行政も住民に対しての情報提供が十分とは言えなかった。

: 地震についての勉強会をするそうだが。

A 地震と原子力発電についての見解が違う学者（大学教授）から、今月17日に神戸大学の石橋克彦先生に、来月2日に東京大学の溝上恵先生と、2回シリーズで講演会を開き、勉強をする。

: 浜岡原発訴訟の住民側、当局側双方の証人の立場の先生の話を書くというのは凄いこと。

以上